

平成30年度 輸出に取り組む事業者向け対策事業に係る海外販売促進活動報告書

平成31年1月31日

農林水産省  
食料産業局長 殿

JA全農インターナショナル株式会社  
米穀・園芸部

平成30年度における輸出に取り組む事業者向け対策事業の海外販売促進活動について、下記のとおり報告いたします。

対象国・地域 : 台湾(台北市)

実施期間 : 平成31年 1月17日～1月31日

(フェアに係る出張 : 平成31年 1月16日～1月18日)



「台北市新光三越A11店 JA全農フェア」

## 1. 台湾・新光三越での「JA全農フェア」実施概要

- (1)期間 : 平成31年1月17日(木)~1月31日(木)
- (2)場所 : 新光三越 信義A11店
- (3)対応者 : JA全農インターナショナル 米穀・園芸部 白石  
全農インターナショナル台湾 野末所長、黄氏
- (4)内容 : 約2週間にわたり、旬の果実を継続販促した。  
春節向けに箱売りを中心に展開、JA全農インターナショナルの職員(現地法人含む)やプロモーターにより、試食を多いに振る舞いながら販売および日本産果実の良さをアピールした。また同時に消費者からの意見等を収集した。
- (5)販売青果物  
温州みかん、金柑、いちご、りんご、メロン



## 2. 所感・今後

- 消費者からは「日本産の美味しさは安定しているね」「しかし高すぎる」「贈り物にいいわ」「野菜ないの？」等、さまざまな意見はあったが、味・品質については概ねGOODの反応であった。
- 今回空輸中心で鮮度をアピールしたが、鮮度はある程度当たり前で、やはり価格を抑える取組みが必要だとあらためて感じた。  
船便の満載輸送、およびロットに対応できる販売力が必要である。
- もうひとつ、検疫課題がある。現実、出荷できる品目が限られている状況である。  
アイテムを増やさないと輸出額は伸びない。輸出に向けた産地への提案を増やしたい。  
また、今まで取組んでいない実圃場作り等の補助事業申請等も今後は検討したい。
- いろいろな面で課題が山盛りである。会員メンバーと共有できる点は共有し、チームJAPANとして、補助事業を有効活用させて頂き、青果物の輸出拡大に向けて取組んでいきたい。

